

宜野湾高校の生徒達へ（76）

2021.1.28

福谷浩司さんは、愛知県立横須賀高校から慶應大理工学部に進み、ドラフト1位で中日ドラゴンズへ。2020年は8勝、防御率2点台の好成績を残した。彼の高校生へのメッセージを聴いてみよう（朝日新聞:1.17）。

高校受験の時、両親からは私立の野球の強豪校を勧められましたが、自分では通用しないと思い、進学校の愛知県立横須賀高校に進みました。高校では、授業中は**授業を聴く**、練習中は**練習に集中**、と**メリハリ**をつけた。試験前の部活動が休みになる期間に友達と集まって勉強していました。



よく「野球と勉強を両立してたんだね」と言われます。でも勉強はテストでいい点をとるために教科書を丸暗記するだけでした。

大学でも最初は卒業のために教科書をがんばって覚えていただけ。大学3年で、**卒業論文**のために初めて**自分で考えて課題を見つけ、学んだ**。「これが**本当の勉強だ**」と思いました。

プロ野球でも似た経験をしました。2年目に結果が出たけど後が続かず、全てを否定された気になった。色んなことを周りから言われ、その通り練習しても何が正しいかわからず、身につかない。

受験勉強も同じではないでしょうか。**勉強法**について色んなことを言われますと思いますが、そこから**自分に合った方法を見つける**ことが一番だと思います。

結果だけみると、志望校に受かった人とそうでない人に分かれるのかもしれない。でも**受からなかった人が、その後の人生で挽回するチャンスはいくらでもある**。

いま30歳になって大切だと思うのは、**自分で課題を見つけ、それを克服するためにどう行動するのか**ということ。そういう勉強の方が、大人になってから必要だと思います。

福谷氏の「自分で課題を見つけ、それを克服するためにどう行動するのか」は、皆さんが総合的な探究の時間（総探）にしっかり取り組むことで身につく力である。この力を各教科の**学習に活かす**ことができたなら、皆さんのこれからの人生に大いにプラスとなるだろう。

次に下地邦拓氏の「**失敗と向き合う、鍵**」に耳を傾けてみよう（琉球新報:1.15）。下地氏は、10/7に総探の講師として来校している。

将来の目標達成に向け、挑戦を続ける学生のみなさんは、これからさまざまな**失敗に直面**することになるが、決して**恐れることはない**とお伝えしたい。

私は、**失敗とのつきあい方を工夫**することで成功につながると信じている。

その時に**鍵**となるのが、失敗に直面したときに思考停止状態でとどまり、諦めるのではなく、**打開策を練り、行動し続ける**ことだ。



下地氏は、**留学で多くの失敗に直面した時の打開策**を次のように語っている。

学費全額免除には届かない「**資金獲得の失敗**」の時には、大学に掛け合い学内で授業補助や寮長の仕事に就くことで学費を抑え、結果として東京の大学に進学するよりも学費を抑えることができた。

同様に、宗教学のクラスで、一人では授業についていけない「**学びの失敗**」の時には、授業前後に教授や同級生に質問攻めにするを継続することで良い成績を獲得した。

また、50通以上のインターンシップの志願書を出しても音信不通・断れ続けた「**機会獲得の失敗**」の時には、返信のあった2、3通の志願書をもとに教授や仲間と作戦を練って応募したことで、求めていた機会を獲得しただけではなく、その後の就職につなげることができた。

挑戦者に、失敗経験者は存在しない。

共に**たくさん失敗し、失敗から素直に学び、目標を達成**していこう。

私たちが生きていく中で、すべて自分の思うようにはならない。むしろ、うまくいかない場合の方が多い。下地氏の「**失敗と向き合う方法**」は、これからの生活を充実させていく上で大いに参考になるのではないだろうか？

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎